畫圖西遊譚
伍

西遊旅譚巻之五

正月八日平戸島を發して田平羅の渡一里夫より御厨へ
三里又の本一里にして調川といふ社人の茅舎に宿す其
の山中也此途海岸をめぐりて風景よし調川より
一里志佐村といふよろし今福へ二里ありこれへくる
所より總て久原まで四里ほとり入海を舩又ゆくなり
三里伊萬里に宿す此所より鍋島侯の領地にして
焼物と云もの大河内山有田山此山中にて焼出す陶器
日本國中にいふなれ

十日風雪ことにはげし
此鏡山を越し屋敷(ヤシキ)野村
山の半にみゆる此所は
唐津(カラツ)と伊万里(イマリ)乃
封疆(サカイ)なりとかや
徳末(トクスヱ)にいたる此あたり
三里あり濱崎と云
所あり宿も此辺(コノヘン)山
山高し

調川(ツキノカハ)より
御厨(ミクリヤ)乃
呂七ツ島
あり

大河内山

此山三里余リテ焼物ヲ作ル

クスク村

牧島

クキ島

志作より今福ノ間北ノ方ヲ眺

文島

ホシカ浦

鮪楼海中にまくと浮セイロウト云

壹州

今福の方へ行路より眺

大石

志作村

十一日徳末を発して行事二里半吉井村に至り吉井川を渡て濱崎に出る右ハ西海ゝ唐津の城海湾を隔てゝ見ゆる 水野侯六万石ノ城下なり 又行事一里半深江に至り二里ばかりとゆきて前原といへる所あり此辺筑前の雷山の下をとをる山のうち唐画の如し所々に雪の斑に降て白し頂に不動堂あり又瀧あり

十二日前原(マエハラ)を出て行事二里今宿(イマジク)に至る又行事二里にして姪(メイ)の濵(ハマ)といへる所人家(ヒトイエ)続(ツキ)て一里ゆけバ福岡(フクヨカ)なり 黒田侯五十万石ノ城下ナリ

夫より行事半里博多(ハカタ)なり富商(フシヤウ)多し 昔唐船ノ入津シタル所ナリ博多織ハ当所ニテ製ス今ハ其製なし

西の方海まて南ハ山まて段(ダン)〻なり橙(ダイ〻)家〻に植(ウユ)常に酢にもちゆ

風景石斛(セキコク)おのつから山谷に生ず又石炭(イシスミ)を出す

正月十五日此地に泊りて松林(マツハヤシ)といふを見る扨当(ソノヒ)家〻戸ごとに酒肉(サケサカナ)を設祝ふ事なるに博多(ハカタ)町人ハ麻(アサ)の肩衣(カタギヌ)を着(キ)下(シモ)ハ裁付(タチツケ)をはき其上に足手拭(テヌグヒ)をしめ頭(カシラ)に頭巾(ツキン)を戴(カブリ)草鞋(ワランジ)をはき福岡の城内に入玄関(ゲンクハン)に至(イタリ)

酒をのみてくらす是を松林といへる所謂ハたゞ遊なれど
ゆへ博多ハ唐船の渡海して今猶繁昌の如し福岡乃
領地となりし故にむかしの風俗今に存せり近世ハ踊屋臺
或ハ祭禮を出せし櫛田の祠博多第一の大社なり柳町
ちかごといへる色町なり
十六日博多を出て筥崎へ半里あり姪の濱を見ざる人家續く筥
崎八幡夫より松原を通りて青柳といふ四里此間海濱中ニ見ゆる
藍島也残の島見えて景佳又山中に入二里ほどして畝町といふ宿あ

雷山
橋七十間余
モロミ河ニカヽル
加久山
尾前山
うちつゞきて
皺蔵し

松林（マツハヤシ） 博多町人福岡より

藍島
大島
名島弁天
海中路
灘濱
亀
筥崎八幡社
博多町百八町有

大机シマ
玄界シマ
鹿ノシマ
東照宮
福岡ノ方
ウグシマ
燈籠

廿一日下関より船に乗る西風吹て防州[illegible]まで三十五
里奴和といふ小島に船をかけける人家十八九軒あり又西風
に帆をあげて藝州の内御手洗といふ島にいたりて泊す
海岸人家多し　廿三日出帆し備後の鞆といふ所の船を
よする福山の領地也人家八九町あり船は津泊を待て渡
世をおくる酒肉売店多し　廿四日暁帆を揚て出立
まてとよする七時備中の国牛窓にいたる岡山ノ領地　此所にて船よりあがり
陸地を行こと七里備中の国岡山に至る　二月十三日岡山を発して
藤井　一市　吉井川を渡り　伊部　片上　八木山を越て　三石　有年

備後の鞆
備前牛窓

此ヶ島を出て有年（ウ子）川舟渡（ワタシ）正条姫路加古川より大久保
此間五十町一里あまり程なく明石舞子（マヒコ）が濱淡路を望み面白く
絶景（セッケイ）也　兵庫に楠正成（マサシゲ）の墓（ハカ）あり　山に入布引の瀧を見る　山下（サンカ）山本（ヤマモト）
一村梅樹多し　其比（コロ）花盛なれバ雪のごとし　生田（イクタ）の社ハ此より来
行左至道より麻耶山（マヤサン）に登（ノボル）甚高し　山より見れハ西乃方に
見え大坂へ五里　二月廿三日浪華（オホザカ）難波橋（ナンバハシ）をわたり池田
路より通（スギ）池田の里にいたる　池田川をわたり町四五街（テウ）を
出て須磨へゆくに一里斗にして多田にいたる　多田の社あり温泉（ヨシセン）池ノ湯
廿四日多田を出て深山に入　箕尾（ミノヲ）山にいたる　瀑布（ハクフ）（タキ）へゆき一見す

箕山瀑布
不動堂

数千丈直に落る那智の瀧に似たる瀧の右山にのぼる路甚嶮し
石坂をよぢて越る勝尾寺観音堂あり西三十三ヶ所の札所なり
山上より大坂の方を見るに五里ばかり遥に城見ゆ夫より山を下て
山田の宿といふ此より西路に行けば食店あり河を二瀬舟て
渡る一は長良の渡しといふ渡りて後大坂へ入
二月廿八日浪華を出て闇峠を越て伏見の方を望み伏
見豊後橋をわたり京町を二三町行て裏手より畑をしばらく
畑の中を梅桃を多植方六町ばかり桃山と名づく古は奈良
の方へ路して大和街道といふ畑は諸侯の名いふところに存せり

宇治見臺（ウヂミタイ）中ころ築し古の城が庭の跡とか云小山よりのぞむなり
湖中に堤（ツヽミ）ありて小椋（ヲクラ）堤（ツヽミ）と云秀吉公此堤を築（キツク）奈良へ行に宇治
を廻て遠（トヲシ）故に堤を築町ありて岸に楊柳（ヤウリウ）多し　柳ごりは此堤に細工あり
臺（タイ）よりむかふに左の方は宇治の里宇治川流れて向（ムカヘ）は奈良山見へて
遥（ハルカ）に金剛（コンガウ）山吉野山見ゆる右は闇峠（クラカリタウゲ）モロ木山八幡山見えて
湖中漁舟将棊（カヂ）を盪（ウゴカ）し堤（ツヽミ）の半（ナカ）に漁村（ギヨソン）ありて其比桃の花
めでたしといへども山に咲錦のごとし
墨染の里遊亭（ユウテイ）ありて其の辺なり寺に墨染桜あり橦（シユモク）
町（マチ）なるをうかつかのに遊ぶものあまたあり

宇治石寺より眺望しまる図

八幡山

闇峠

金剛山

吉野山ノ方

春日山
宇治山
黄檗山
魚肉モ
酒デモカクアリ
花の時ハ茶店ニハ出ス

三月朔日宇治の方にゆく伏見御幸の宮の前を過て桃山の下城跡を左にみて六地蔵木幡村を過て黄檗山萬福寺ハ唐僧隠元禅師承應の比創立する大伽藍なり夫より三室堂橋寺恵心寺奈良の方春日山大佛殿興福寺郡山の方より法隆寺立田及吉野の方まてすへて是を大和廻と云古蹟多し能人の知所なれハ爰に不載それより京へ出て數日留りて名所古跡多けれど繁けれハ略す四条橋をわたりて東山の方にゆく祇園町遊亭を祇園の社夫より八坂の塔を清水観音の方へゆくなり

西北ハ小野天神北の門とて紙屋(カミヤ)川にかゝる小橋を渡(ワタリ)西の方へ
る社なり鳥居の前に桜多し　寂(モノサヒ)たる社也鳥井(トリ井)表ゟ
東の方に御室(オムロ)あり御室(オムロ)堂の前八重桜多し夫よりまた
二十餘町西に嵯峨(サガ)釋迦堂あり七八町をへだて嵐山あり
桜の木陰(コカゲ)より一重桜を植置し大井河とのきハ東ハ
桂川(カツラガハ)といふ山ハ丹波のうちに續(ツヾケ)り其内に茶店を出し酒食
ありて其川に橋を掛るを渡月橋(トゲツキヤウ)と名(ナ)付て虚空藏(コクウサウ)
堂あり茶店(テン)有り夫より東の方へ帰るに其路松尾の社
梅宮(ムメノミヤ)あり甚(ハナハダ)閑(シヅカ)なる所にして其門に入と遊行(ユウカウ)の人稀(マレ)なり

三条橋より四条をのぞむ

清水觀音
東山
八坂塔
大佛殿

嵯峨嵐山

虚空藏堂

錦らし桂(カツラ)の渡(ワタシ)千本通より(ヨリ)此条姫女町〻の方に到り東寺(トウジ)に至る弘法大師の像此寺にある開帳なり三月廿一日より諸人参詣多し本堂ハ千手観音後堂ハ薬師如来也此寺甚大伽藍なりしと何(イツ)の比(コロ)焼(ヤケ)しか羅城門有 西本願寺又本國寺の前をゆきて西南の洛外(ラクバイ)を廻りくる北東の方へ叡山(エイザン)近江ノ国なり 鞍馬貴(クラマキ)布子(フ子)弥賀茂此人の喜ぶものと奈れハ不語

三月廿八日近江国鈴鹿山をこゆる筆捨山景色よし残花所々に咲く

四月四日美濃の国帝渓山ニ至ル

本堂

寺アリ
夫より

十解峠一里廿五町アリ
峠ニ馬籠宿あり

胞衣ヶ嶽
雪ありて白し
此所より五里
飛騨の乗鞍ヶ岳
此ノ方御嶽
加賀ノ国ニ白嶽
又右ノ方剱ヶ岳
皆雪峰也

子ごそ峠草木ハ多く月のはしめ山をのぼりてハ躑躅(ツヽジ)桜桃梨子花(ナシノハナ)咲
けり。岐岨(キソ)河流(ナガレ)て桟道(サンダウ)を繞(メグリ)て渓水(ケイスイ)乃青き淵ハ
なし人家板屋作(イタヤツクリ)萱屋(カヤヤ)多し壁(カベ)皆板にて栂欅(ツガケヤキ)の類也
八五原(ヤブハラ)奈良井の宿鳥井峠を越十八町のぼりて三十町下る
熱川(アツカハ)より二里本山(モトヤマ)宿より岐岨路(キソチ)を離れ下諏訪(シモノスハ)温泉(オンセン)有(イデユ)
二所に在。湖水(スハノ池是ナリ)の向ふに高嶋城見へ中に富士山も見ゆ夫より
和田峠江り五里のぼりて峠に茶店あり、ここらハ四月
雪をのこしてふぶきて七曲(カリ)坂あり

砥目川
橋

岐岨(キソ)の人家

駒ヶ嶽
雪峰也
流ハ岐岨
川ニ入

稲川橋
野尻須原の方
流ハ岐岨川ニ入
雪峰

四月十日浅間山の下を通る四十餘年以前此山焼出ることありける時の焼石ハ皆大石にして色黒く軽し又七年以前にも焼出て軽井沢より坂本碓氷峠山々皆焼石にして樹木枯小石多く此地寒き所にて松すくなし樅多し又栃の木多し上州妙義山其石ちら〳〵と立たる山のうちに嵬を為す

一里餘あるといふ
岩山の峯に二ツの穴あり
此穴つきぬけて向ふを
見る百合若大臣射
ぬきの穴といふ

妙義山岩峯
画事不及

十二日深谷より熊谷宿まで堤(ドテ)ニ手町まで皂角(サイカチ)乃樹(キ)あり。右の方相州大山又冨士山見ゆる四月十三日大宮より板橋まで郷里(ケウリ)神僊(シンセンザ)にて了る

寛政庚戌四月　門人蘭江平民誌

江漢先生著

司馬道人以蘭學擅名若其西洋畫銅板爲吾日本創業之作此後出其餘技山川之真寫人物之變態一披覽之如遊四方也記遊者夥矣

衛人遊之譚然因其所
観寫在胸中逸可謂
人非其人畫雖為畫
者乎余於此亦甚喜之
享和三年秋初
春琴選書

日本名勝詩選 小本一冊
諸名家名所古跡遊覧紀事等の詩を類集

本朝詠物詩選 一冊
艸廬先生著 詠物の詩をあつむ

七書正文 二冊
滄百年先生校正の本にして一字も畫の誤りなき素読本の家上なり

同頭書 五冊

同俚諺抄 十冊
悉くかなをつけ 注をも圖解入

孫子經典餘師 讀やすく附 平かな注入

呉子國字解 三冊

武用辨略 八冊
武門に入用のすと一事ももらさず故事起源をくはし 仍之次

頭書校正 武用辨略 五冊
天時地理國府城郭武具弓矢甲冑鷹犬まで古実由来を志るせし

本朝武具要説 一冊
武田信玄公武器の長短得失の道理を論ぜし書なり

古今軍器製作辨 二冊
昔よりの武器の造りかた得失をとく

楠七巻書 五冊
楠家代々の兵書ふして軍学者必覧の書なり

築山庭造傳 三冊
庭のつくり方泉水築山石の居すへ方燈籠のおきどころ 外林泉の法式と記す諸家名高き林泉を図に出し

同庭作傳 一冊
方凡樹木の仕すへつけ物文字の書物 貯中より外人家堂室のつくりを集

聞書秘傳抄 一冊

農家益 三冊
はぜの木の植方実時節の土地の見立やうの方様秘密の口傳
おくはしく素人のさとし易きやうに絵をかへ委くしるせん
是を植て農家の益を得ることの広大にして國を富し
家を利するの術のすくなからず事是にてしらるべし
國つくし食田を費さず道端堤岡原野をも水のかからぬ
不毛の地火除地などによく育ちて莫大の効
あるを以てこれ勧めんとするなり

同後篇 二冊
此書は是まで櫨を植し國郡の大益 仕法と近前篇にもれし土地
櫨の実の取方 蝋の製し方 つき蝋早くしろく晒蝋
の製方びん付油の製方など委しく細しるし

袖珍國華万葉箋
諸国名所并名物旅行 悉くかな付

都名所圖會 六冊
同 拾遺 五冊

大和名所圖會 七冊
河内名所圖會 六冊

和泉名所圖會 四冊
攝津名所圖會 十二冊

以上 平安 秋里大 著
五畿内名所圖會 箱入全部三十冊

東海道名所圖會 六冊
木曽路名所圖會 七冊

伊勢参宮名所圖會 六冊
播磨名所圖會 五冊

紀伊國名所圖會 五冊
同 二篇 五冊

住吉名勝圖會 五冊
廿四輩順拜圖會 十冊 北陸道名所記あり

唐土名勝圖會 六冊 大清都の有さま名山人物等今の唐土を目前に見る如く委く記ス

都花月名所 懐中本 一冊 四季花虫紅葉其外たぐひなき名所の所々と出し好事の人に便よし

芝居両面鏡 大坂の芝居を見るに此書なくんば不案内の人も直にわかる掌内の書なり

戯場訓蒙圖彙 五冊 江戸の芝居のことを委しく記す 繪入しき讀本しらしあきまえ

歌舞妓叢書 十二冊 芝居のことつらまでの事を一微細に記し考古の書なり

俳優奇跡考 八冊 古今役者名人の一代記往古の芝居の噺を一つに書しるす

役者百人化粧鏡 一冊 百人一首にかたどり名人の似顔をえがく

同 艸比種 似顔繪入 一冊
舞臺𠏹 彩色似顔入 一冊

俳優濱比真砂 六冊 金門五三桐の節より似顔繪入のよみ本なり

川崎音頭 伊勢古市 五冊
五大力 五人伐 三つ五郎兵衛 四冊

三勝櫛 三勝半七 六冊
言葉艸 平井權八 五冊

秋葉話 日本左衛門 六冊
戯場枝折 宿無團七 三冊

文金堂製本目録

大坂心斎橋通唐物町　河内屋太助

小學 序ゟ解付　大本二冊
世間ニ数本あれども読方誤りおゝく　今校正して素読のたよりとす

唐音和解 二冊
唐音を習ふ詩曲ならびに其外日々通用の言葉をしるしたるもの

白石先生鬼神論 平かな本　二冊
経史に載する諸説を挙げ論じて明白に得失を弁ず

為學初問 周南先生著　平かな本　二冊
此書ハ学問の道理　儒佛神の論より和漢歴代の興廢諸儒の得失をくはしく論じ　初学の惑を解く児童といへども読やすくしるせり

天學指要 西村遠里著　四冊
此書ハ天文の奥旨を含み見易きやうに委くあらはせり

孝經典餘師 一冊
小児にても読易きやうに上段に読方を記し本文の傍にみな平かなにて文句の意を知らしむるやう委く注釈せり　無学文盲の人も師匠なしに学問の出来る書なり

子華子 全二冊

書經講義 全部八冊　書経の注入

畫圖西遊譚 東都司馬江漢先生著　自画　五冊
江戸より長崎までの紀行なり
此書ハ先生遊歴の地奇譚珍説見聞に随ひ平がなをもて画を交へ記し西海鯨漁長崎唐人館等の面白きことを記す

改正難波丸 六冊
大坂市中町名尽　諸商人所付　其外一切の名所其外一切のことを残らず記す

大坂宮寺巡 小本　一冊

大坂寺社順拝記 一冊

大坂名所獨案内 小本　一冊

四天王寺伽藍記 一冊

新撰伊勢細見記 一冊
道中ならびに付名所古跡　宮めぐりくはしく記す

両面年代記 折本　一帖
神代より天皇代々年号の最初より当時まで年々の事跡をくはしく記す

大成年代廣記 折本　一帖
和漢とも上古より當代まで年暦を分ち記す
歴代の興廃奇事変異などを委くしるし　世々の時代を記し和漢一覧の年代記として学者の必用に備ふ

燕石襍志 六冊
曲亭馬琴先生の随筆にして和漢の俗説を弁ずる面白き書なり

孝經大義國字觧 三冊

洪範全書 六冊

文化新刻 五經 道春点 大字十一冊 素読本にして文字大きく一字の誤なきやうにせし善本なり

洪範和觧 平子和先生講釈 全

四書字引 一冊

金華文集 平子和先生之集 四冊

徂來集 詩文尺牘を集 二十冊

古今詠物詩選 東竹陀先生輯 全四冊 合本五冊

附録歴朝名家詩話 漁洋山人著 一巻

漢魏六朝より隋唐五代宋元明人に至まで歴代の名家詠物の詩と佩文齋集の内より選輯す 袖珍本

初學作文圖箴 折本一帖 初心の人文章を作る法を分り易く記し此書をもて作文直に出来る

李喬詠物詩選 一冊 唐の李喬が詠物の詩を一首ものこさず集む

唐明詩類函 二冊 名家の詩二千二百余首を小冊に納て作例の便とす

同二集 歴代名家之部 二冊 歴朝詠体の異なるを以て輯載て初学詠物詩を作る要に備

月氷奇縁 馬琴著 五冊 いろ〳〵入組たる趣向の面白き繪入よき本なり

新累解脱物語 同著 北斎画 五冊 祐天上人累の死霊を教化の事を本とす繪入

松染情史秋七種 同著 豊廣画 五冊 お染久松の繪入よき本なり

昔語質屋庫 同著 五冊 古器旧衣に寄せて和漢の俗説を弁じたる面白き読本也

金花夕映 谷義著 北嵩画 五冊 唐金藻右衛門日観上人丹波与作関の小まん等の物語読本也

石言遺響 馬琴作 北馬画 五冊 小夜中山夜泣石の由来無間の鐘の事物語なり

月宵鄙物語 五冊 姨捨山の故事に依て更科の長者鄙原の事を記し昔の物語画入の本

小栗外傳 北斎画 六冊 小栗判官照天姫の奇遇を面白く書あらはし画入よき本なり

拳會角力圖會 二冊 拳の打かた声の次第指の出し方其外色々のけんを書あらはし

滑稽即興噺 山東京傳閲 五冊 おかしき趣向のおもしろき咄を集めし本也

享和三年癸亥八月發行

中橋南傳馬町壹町目
江戸書林　鴨伊兵衛梓

幼學詩韻　全部一冊
世ニ行ル、詩語碎金ノ通季ヲ分カナ注ヲ加ヘ轉句押ヲトミノ字ヲモアケ礎ノ所ヲ集幼學ノ便ト成書ナリ

歴代帝王承統譜　一枚摺　春川先生著

脚氣解　片カナ本　全部一冊
脚氣類方同作　澹齋先生著